

# 中学生広島平和教育研修



富士見中学校2年 貴也  
見とり取 貴也  
富士見中学校2年 貴也

## 広島に行ってみて

僕は実際に広島市の被爆地に行つて、三つのことを感じました。

一つ目は「平和記念公園」を見に行つた時のことで、原爆ドームを前にして、「71年前にここで爆発が起きたのか」と何とも言えない気持ちになりました。実際に原爆ドームを見ると、戦争の悲惨さを思うことができ、改めて戦争は決しておこつてはならないものと感じました。建物をこんな姿にしてしまう程の威力のある爆弾が人に直撃したことを想像すると、恐ろしくてとても切ない気持ちになりました。当時の被害は本当に甚大なものであったと思います。なので日本は、唯一の被爆国として実際に原爆が落ちた国であるという事実と戦争の恐ろしさを伝えていくと共に、被爆者やその家族の思いを受けついでいかな

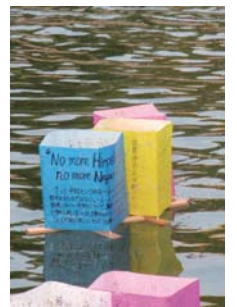
てはならないと思います。

二つ目は、「平和記念資料館」に行つた時のことです。当時の写真を見て、ただれた皮ふや、こげた服、そしてがれきだらけの町を見て改めて本当にこんなことがあったのかと目を疑うような光景でした。

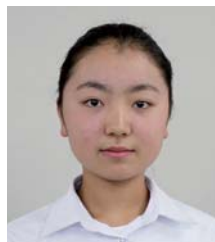
他にもオバマ大統領が直接手を入れた鶴や手紙が保管されており、当時敵国だったアメリカが、70年の時を経て、こうして現職の大統領が広島のことを思ってくれているということが大切なことだと思いました。これからも日米関係を大切に続けていけたらなと思います。

三つ目は「平和祈念式典」のことです。

去年まではテレビで見られるだけの平和祈念式典でしたが、日本だけでなく世界の平和を考える人々が参加するこの歴史ある式典に自分も参加させて頂くことが出来、とても尊い時間を過ごすことが出来ました。その雰囲気はテレビでは見た事があつたけどその場になければ分からない心が引き締まる厳粛な雰囲気を味わうことが出来ました。



広島平和研修を通して、実際に被爆者の体験を聞かせて頂いたり、戦争の傷跡を確認出来たことを今後僕達の後の世代に、引き継いでいきたいと思います。貴重な体験が出来たことは、これからの僕の人生に活かされていくと思います。自分自身戦争があつたことを忘れず人生を歩んで行きたいです。



富士見中学校2年 奈京  
富士見中学校2年 奈京

## 私の見たヒロシマ

ビルが立ち並び、多くの人を乗せて、ゆつくりと走る路面電車の横を車が次々と走り去っていく。信号が青に変われば人々がどっと道路に流れ込む。71年前、何もない焼け野原だったとは想像もつかないような町並みの広島。しかし、「確かにここは昔、焼け野原にされた場所だ。」と平和記念公園に立つ原爆の子の像は語りかけてきた。

私は広島研修の三日間、資料館や原爆ドームを巡り「戦争とはなんだったのか」、「平和とはなんなのか。」考えた。8時15分で止まった時計、布とも言えないくらいに裂けてポロポロになった衣服、溶けて形がなくなつたガラスビン、剥がれ落ちた人々の皮膚。これは私がこの研修で見て来たものだ。これだけで原爆の悲惨さが分かる。だがこれだけではない。多くの一人、一人ひとりの生活が原爆によつて奪われた。そして、その後も奪われ続けている。

被爆者の山本八重さんは、私達に涙ながらに語ってくれた。「原爆で全てを失つた。家族、友達、そして私の夢も。原爆は地獄だ。」と。「一瞬の光で街は火の山に変わり、川には水面が見えないほどの死体が流れ、辺りを皮の垂れ下がった人々が逃げ惑う。」話から酷い事実が伝わり、心が痛くなった。そして八重さんは最後に言った。「戦争は決してしてはならない。」と。私はこれを聞いて「原爆投下は人類の大きな過ちだ。」「核兵器など、この世界から無くなればいい。」そう心の底から思った。研修で見たものはあまりにも衝撃的で、厳しい現実を突きつけられた。

このヒロシマの実相を知つた以上、私は「二度と同じ過ちは繰り返してはいけない」ことを多くの人に伝えていかなければならない。

オバマ大統領が今年、広島を訪問した。謝罪することはなかったが、これは「核兵器廃絶」に少しずつ近づいているのだと思う。

このように少しでも多くの人に「平和」や「戦争」「核兵器廃絶」について考える機会を持つてもらえるようにしたい。

その為に私は広島で見聞きしたことや感じてきたことを自分の言葉にして伝えていく努力をしたいと思う。

